# おひざのうえで

（副園長の子育ておうえん通信）（２０２２年９月）

せんりひじり幼稚園
副園長　安達かえで

## 「　リスペクト型対話　」

行動制限のない夏休みでしたが、コロナ感染に不安を抱えながらの１か月は、大変だったかとお察しします。身近な人が感染をして自宅待機を余儀なくされた方やご自身が感染された方もいたかと思います。もう誰が感染しても驚かなくなりましたよね。「あら、あなたも？」みたいな･･･。また、少しでも咳が出たりすると人に会うの控えたりされたのではないでしょうか。

園長が出張の時に、新幹線でお茶を飲もうとしたら、気管に入って咳をしようとしたけれども、「ひたすら我慢するのが大変やった。」と帰宅。「今や、オナラするよりも咳する方が気使うで～」と･･･（苦笑）

横浜にいる孫も、鼻水と咳がなかなかスッキリせず、暫く家にこもっていたようですが、娘から「もう無理！！」の電話が入りました。電話の向こうでは孫の泣き声。１歳の弟と３歳の上の子を家の中で数日間遊ばせるには限界がありますよね。よく頑張っていると思います。飛んで行ってあげたいけど、LINE電話で絵本を読んであげるぐらいでは、満足しませんよね。

私たちはこの夏、多くのオンライン研修を受けました。全国幼児教育実践学会で、あかね先生とゆま先生とななこ先生たちが、ポスター発表をしました。オンラインでのポスター発表という珍しいやり方ですが、参加者は事前に配信されたパワポのポスターを見た上で、ZOOM で発表者の説明を聞き、質疑応答に 30 分。それを３クールしました。

研究内容は、子どもの姿を語り合う会議の時の、言葉のやり取りの分析です。若手保育者の疑問に、それぞれのミドルリーダーはどのような意見を言い、それが若手保育者にどのようにエンパワメントしているかというような内容です。フレッシュミドルリーダーが共感で支え、中堅ミドルリーダーは他の事例を元にや気づきを促したり提案をし、ベテランミドルリーダーは子どもの育ちと結びつけて、次への意欲に繋げていることが分析され、若手保育者を多方向から支えていることを考察していました。就職して５年目のこの３人が、全国から寄せられた質問に次々と返答していく姿は、かっこよかったです。

若手育成は全国的にも教育業界の課題として、ミドルリーダーの育成と共によく話題に上がります。昨年、保育ナビという専門誌に、主任の晴子先生が書いた若手育成の執筆がイラスト漫画とコメントで１年間掲載され、それがこの夏、「すくすく子育て」でおなじみの大豆生田先生編集で「リスペクト型マネジメント」という本になり出版されました。

園長や私も、この夏、研修会で育成の話をする機会がありましたが、若手育成もミドルリーダー育成もせんりひじりでうまく機能しているのには、職員同士がお互いをリスペクトした対話が常になされているからだと思います。それだけではなく、子ども理解の取り組みが同僚性

を育み、笑いの絶えない雰囲気づくりも要因のひとつだと思いますが・・・。「こども会議」という映画がこの夏の話題に（一部だけ？）なっていたので観に行きました。映画で思わず声を出して笑ってしまったのは久しぶりです。子ども会議の中で子どもたちが織り成す会話が、筋書きがないだけに想像を超えた面白さでした。誰もが安心して自分の気持ちが言える関係性や雰囲気が、豊かな対話を生み出します。対話を生み出すためには、まずは、何でも言い合える雰囲気づくりとお互いをリスペクトし合う関係性が必要だということを実感しました。

　さて、他にもオンライン研修で、鳴門教育大学の湯地先生の、「フロー理論」を元に、遊びが「ゾーン」に入る環境づくりの講演も聞きました。子ども一人一人の興味関心や技能が違うことを念頭に、それぞれにあった遊び込める多様な環境づくりが、あそびの「ゾーン」に入り込む上で必要だと感じました。できるだけ様々な遊びの環境を用意し、それぞれが自分の興味ややりたいことにぴったり合う遊びを見つけて遊び込み、ゾーンに入っていけるようにサポートしていきたいです。

　いつになったらコロナが終息するのか・・・その日が待ち遠しいですね。そんな中で、行事やイベントが盛りだくさんの2学期が始まります。感染対策に配慮しながら、子どもの育ちを最優先に考えて充実した日々にしていきたいと思います。2 学期もどうぞよろしくお願いします。

終わった～！！

全国幼児教育実践学会　発表直後